



選手・役員感想から

副島 真 君 『国際情報オリンピックに参加しました。今年は Bulgaria の Plovdiv で開催されました。コンテストでは5時間4問(簡単な問題が2問、普通の問題が1問、難しい問題が1問)の試験が2日間行われました。結果は去年と同じ銀メダルでしたが、去年のように大量のバグで落とすことはなく、解けるべき問題はすべて解けたとおもっているので、これで銀メダルなら仕方がなかったと思っています。

コンテスト以外では、外国から来た有名な人たちと会うことができました(United States の Neal Wu, Croatia の Zusa などに会いました)。また、ISC(国際科学委員会のメンバー)として来ていた Slovakia の Misof に会い、少し話をしたり、握手をしたりしてもらえました。

情報オリンピックに参加するのは今年で最後になります。情報オリンピックに参加したきっかけは、問題を解く効率的なアルゴリズムを考えることに興味を持ったことでした。情報オリンピックでは、“アルゴリズムを考える”ことと“それを実装する”ことの両方が求められます。しかし、(国際大会で上位を目指すなら別かもしれませんが、)“アルゴリズムを考える”ことが好きならば、それだけでとても楽しむとのできる大会でした。“アルゴリズムを考える”ことがとても好きな人、それに興味を持った人、などは是非参加してみてください。今後、そのような人がさらに増え、よりアルゴリズムミク大会になっていくことを願っています。また、今後も、TopCoder などの大会でこのようなコンテストを続けていこうと思っています。

最後になりましたが、情報オリンピックを支えてくださった方々、ありがとうございました。』



滝間 太基 君 『【ブルガリアについて】 ヨーグルトのイメージがあるし、どうせ涼しいだろうと期待していたら思ったより暑くて萎えました。湿度が低くて朝晩が涼しいのは明らかに日本よりましでしたが、昼間は普通に暑かったです。宿舎はホテルだったので冷房がついていてよかったです。ただ、階段がなくて1階から0階まで行くのにいちいちエレベーターを待たないといけなかったことや、食事の種類や量があまり豊富でなくて出遅れると食べ物が少なくなる(特に昼飯が戦場だった)のは微妙でした。

【試験について】 今年の問題が1日4問に増えたと思った当初はびっくりしましたが、増えたのは very easy な問題だったのでそれは大して問題になりませんでした。例年を1~3番、今年を0~3番とするとき、2番に当たる問題の実装が割と軽かったこともあり、あまり大きなミスをするこもなく取れそうな部分点をそれなりに取れた感じで金を取ることが出来ました。

【観光について】 今年はずいぶん開会式の日旧市街の観光があつて疲れました。Day1の翌日はプールやcartingで遊んだだけで、Day2の翌日は片道5時間以上かけて黒海に行って3時間くらい遊んだだけで、閉会式の日午前 shopping がありましたが、そこはほとんど服屋だったのできっと大会側が観光らしい観光をしていないことに気付きました。開会式の日観光を入れたのでしょうか。

【国際交流について】 なんか英語話せないし何回か海外に行ったけど結局あんまり交流できなかったなあと萎えていたのですが、今年はいきなり韓国チームの人たちが部屋にやってきましたので、たぶん交流と呼べそうなことをすることが出来ました。』



保坂 和宏 君 『今年から問題が4問になり、戦略をあまり考えないままコンテストを迎えました。1日目は超難問 Archery を除く3問は簡単めでしたが、終了数分前に Hiring のコードに重大なバグがあることに気づき、ろくに確認もせず急いで提出し直して終了しました。結果がわかるまで怖かったですが、正解していて安心しました。2日目の難問 Regions では、70点分の方針に気付くまでが遅く、効率を良くする時間の余裕がありませんでした。しかし、総合順位はなんと2位でびっくりしました。Regions であと1秒速いものが書けていたら、自分の点数はあと15点高いものになっていて、1位となっていたことでしょうか。いやはや、という感じで非常に惜しい結果で残念ですが、嬉しい気持ちが強いです。閉会式で長い間ステージ上にいる間もなかなか実感がわきませんでした。』

ブルガリアについては、ヨーグルトと丘(Hill)が印象に残りました。行く前はどんな国かあまりわかっていなかったのですが、閉会式を古代の劇場(?)で行うなどの点で特徴的だなと感じました。泊まったのはコンテスト会場にも近いホテルで、概ね快適でした。

国際交流は今までよりも積極的にできた気がします。IMO で出会った人や TopCoder などオンラインでは知り合っていた人など、それに加えて、(大会のニューズレターに日本チームの話題がよく掲載されたためなのか)現地のガイド、といった人たちに話しかけられることが多かったです。また、韓国チームが自分たちの部屋に大量のお土産とともにやってくるというイベントが発生しました。その後もよく話したり、最後の夜にはふよふよで対戦したりと、とても仲良くなれたと思います。

IOI に参加して、コンテストや交流と、選手の側から楽しめる部分は十分楽しみきれました。役員・チューターの皆さん、IOI 運営に関わった方々、どうもありがとうございました。』



平野 湧一郎 君 『ブルガリアは全体的に落ち着いた雰囲気のある国という印象を受けました。気候は日中はかなり暑くなるものの、気温・湿度ともに日本より低く、かなり過ごしやすかったです。』

日程は、5時間かけてバスで黒海に行き、3時間泳ぎ、6時間かけて帰るといった過酷なスケジュールが目立ちました。適当に欠席したり、早めに寝たりして体力をもたせました。海とプールに一度ずつ行ったので、水着を持ってくるべきでした。

試験は、1日目は自分でも非常に満足のいく出来だったのですが、2日目は延々と Mecho のバグ取りに追われたあげく、結局試験が終了するまでバグが取りきれず、惨々たるものとなってしまいました。落ち着いてやれば銀は確実に取れたと思うので残念ですが、目標としていた銅メダルは取れたので満足しています。今後はこのようなバグをなるべく出さないように精進したいです。

国際交流は、韓国の方たちと非常に親しくなったことが印象に残っています。なかなか英語が通じず、もどかしい場面もありましたが、自分以上にプログラミングの得意な方たちと話をしたりゲームで遊んだりするのは大変貴重な経験でした。

最後に、このような機会を与えてくださった情報オリンピック日本委員会の方々、ありがとうございました。』

谷 聖一 団長

『保坂君が 2 位という素晴らしい成績を収めてくれました。滝聞君が金、副島君が銀、平野君が銅と、チームとしてもこれまでで一番の結果となりました。選手の健闘を称えるとともに、これまでサポートしていただいた皆様に感謝したいと思います。また、素晴らしい大会にしてくれたブルガリアの皆さんにも感謝したいと思います。』

→ 八月七日 派遣直前合宿



伊藤 哲史 副団長

『異国の地で超難問が数多く出題された中、4 人の日本選手の皆さんは実力を存分に発揮して本当によく頑張りました。選手の皆さん、おめでとう。堂々と胸を張ってよい、立派な成績だと思います。皆さんが今回の経験を糧に、実力により磨きをかけて世界で活躍してくれることを期待しています。』



秋葉 拓哉 随行人員

『2 位を取った保坂君をはじめとして、今年も全員がメダルを取って本当に良かったと思います。問題の翻訳作業が朝の 6 時までかかった日もありましたが、無事に、正確かつ理解しやすい翻訳を届けられたようで、安心しました。また、直前合宿で扱ったデータ構造を用いる問題が出題され、選手たちが高い得点を取ってくれて嬉しかったです。』

片岡 俊基 随行人員

『今年は皆レベルが高く、十分な練習を事前に積んでいたもので、実力通り過去最高の成績を残すことができたのだと思います。出題された問題の中にはさすが情報オリンピックと考える思考力を試す良問があり、その一方、必要知識も増え、対策がより重要になったと感じました。』

吉田 雄紀 随行人員

『選手達は大健闘して過去最高の結果になりました。このような素晴らしい結果となった IOI (国際情報オリンピック) に選手のサポートという立場に関わることができて嬉しく思います。観光も楽しかったです。』



← 翻訳作業

↑ 国営 TV のインタビューを受ける今城氏



第3回アジア太平洋情報オリンピック

アジア太平洋地域の地域大会として第3回アジア太平洋情報オリンピック (APIO, Asia-Pacific Informatics Olympiad) が5月9日(土)にインターネット上で開催されました。日本からは22名が東京ほか全国5会場で参加しました。各国参加者のうちの成績上位6名だけが代表選手と見なされます。以下の6名が日本代表選手として優秀な成績を収めました。

銀メダル	副島 真	筑波大学附属駒場高等学校	3年	東京都
銀メダル	滝間 太基	筑波大学附属駒場高等学校	3年	東京都
優秀賞	今西 健介	八千代松陰高等学校	1年	千葉県
優秀賞	田原 拓樹	筑波大学附属駒場高等学校	3年	東京都
優秀賞	平原 秀一	千葉県立東葛飾高等学校	3年	千葉県
優秀賞	保坂 和宏	開成高等学校	3年	東京都

(同賞内では氏名の五十音順。学年は2009年5月現在)



夏季セミナー

8月17日(月)～21日(金)に国立女性教育会館(埼玉県比企郡嵐山町)において夏季セミナーを実施しました。24人の参加者が、講義を聴講したり6つのグループに分かれてテキストを自主勉強

したりして、最終日にはその成果を発表しました。



最終日のプレゼン



↑ 西野哲朗先生(電気通信大学)の講義『計算論的学習理論に基づく鳥の歌文法解析』



← 竹添直樹先生(NTT データ先端技術(株))の講義『オープンソースのススメ』



6グループに分かれてセミナー



参加者とチューターたち



第9回日本情報オリンピック参加者 受付中

第22回国際情報オリンピックは2010年8月14日～21日にカナダのWaterloo大学で開催される予定です。日本代表選手候補を選抜する第9回日本情報オリンピック(JOI2009-2010)は以下の要領で開催されます。本選の成績優秀者(Aランク十数名程度)は春のトレーニング合宿に招待されて選手選抜テストに参加できます。また、成績優秀者には下記のような大学入試に関する特典があります。奮って応募してください。

応募資格 : 次の2つの条件を満たす者:

1. 2010年2月14日(日)の日本情報オリンピック本選開催時点で、高等学校、高等専門学校、中学校、中等教育学校、小学校、特別支援学校に在学し、学年が高等学校2年以下(高等専門学校、中等教育学校、特別支援学校の在校生は高等学校2年に相当する学年以下)であること。
2. 生年月日が1990年4月2日以降であること。

予選 : 2009年12月13日(日) 13:00～16:00。ウェブ上で申し込みができ、在宅受験ができます。

本選 : 2010年2月13日(土)～14日(日)に、東京の会場(国立オリンピック記念青少年総合センターの予定)で実施します。13日夜に行われる参加者交流のための懇親会や13日夜の宿泊は無料です。参加者には規定に従って交通費を支給します。

競技内容 : 与えられた問題を解くために、プログラムを書き、実行して正しい答を出力させます。高校生レベルまでの数学とプログラミングの知識が必要です。ただし、本選以降の課題を理解し解答するためにはやや高度の知識が必要です。予選ではプログラミング言語の種類を問いませんが、本選ではC/C++とJavaだけが使えます。合宿で使えるプログラミング言語はC/C++だけです。

受験料 : 無料です。

申込方法 : 情報オリンピック日本委員会のウェブサイト <http://www.ioi-jp.org/> で参加申し込みをしてください。予選開始の2日前(12月11日(金)24:00)まで受け付けます。

結果発表 : 各競技実施後、情報オリンピックのウェブサイトにおいて自分の得点とランクを知ることができます。

特典 : 予選や本選の成績優秀者には以下の特典があります。

- ・早稲田大学理工学部 特選入試受験資格 … 本選Aランク者
- ・慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部 AO入試1次選考免除 … 本選Aランク者
- ・立命館大学生命科学部 AO入試出願資格 … 本選Aランク者
- ・筑波大学情報学群(情報科学類・情報メディア創成学類)国際科学オリンピック特別選抜出願資格 … 本選Aランク者
- ・関西大学総合情報学部 AO入試【活動実績評価型】第1次試験合格 … 本選Bランク者以上
- ・予選の成績優秀者への特典がある大学: 東京理科大学理学部第一部数理情報科学・応用物理学科・化学科・応用化学科 SSE推薦入学出願資格、中央大学理工学部数学科&情報工学科自己推薦入試応募資格、東洋大学総合情報学部学校推薦入試Bパターン方式で総合問題(ペーパーテスト)免除、東京女子大学現代教養学部 AO入試2次選考小論文免除、東邦大学理学部各学科へのAO入試1次選考免除



協賛・後援・協力事業

情報オリンピック日本委員会の活動は、独立行政法人科学技術振興機構および協賛各社のご支援をいただいています。また、文部科学省、情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、電子情報通信学会、日本教育工学会、教育システム情報学会、独立行政法人国立高等専門学校機構、全国高等学校長協会、社団法人全国工業高等学校長協会ほかからご後援をいただいています。

また、株式会社NTTデータの子供向けホームページ『ITなるほど委員会』や富士通株式会社の子供向けホームページ『富士通キッズ:夢をかたち』の製作協力や、「富士通キッズイベント 2009 夢をかたちにするしくみ」の共同開催を行いました。



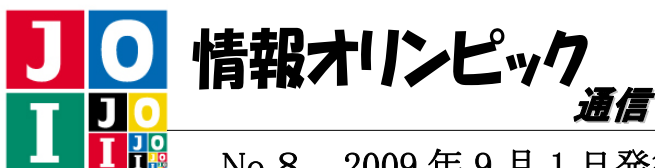
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータ



富士通株式会社



日本大学文理学部



No.8 2009年9月1日発行

編集・発行

(NPO法人)情報オリンピック日本委員会
〒160-0022 東京都新宿区新宿7-26-37-2D
TEL: 03-5272-9794 (FAX: 03-5272-9791)
E-mail: info@ioi-jp.org
<http://www.ioi-jp.org/>